



国際関係学部セミナー

# 不安のガバナンス

日時： 2月28日(木) 11時00分~12時30分  
場所： 1024教室

原田太津男教授が中部大学で18年間にわたって進めてきた研究の到達点が語られます。

他学部、聴講生、卒業生の方も大歓迎です。

## 【報告要旨】

グローバル化とは、世界のあらゆる場所で、経済・政治・社会文化の領域において、幅広い社会階層が「脱領域的な運動過程」に包摂されるとともにそこから排除されることなく「不均等」な過程である。

「不安のガバナンス」とは、これらの包摂と排除をコントロールできる、自分や社会のガバナンス(統治)の様式とは何かという「問いかけ」である。

現在の新自由主義的なガバナンスは、人々を一種の「企業家」とみなし、個々人の「能力」を武器に、その営利追求努力を「公正」とみなすことで、社会を隅々まで「公正」に組織できるという信念の上に成り立っている。別様に言えば、個別の経済主体による自由で効率的な競争による「経済主義」を通じてしか最適な「社会正義」が実現しないという発想が根本にある。

だが、こうした競争への「く惆喝」とく不安」を原動力とする政策の方向性を拒否して新しい公正なグローバル社会の建設を望む動きもまたはっきりと生まれつつある。不安社会の中で胎動するくもう一つのガバナンス」あるいはくもう一つのグローバル社会」への希求には、新しい安心と安全の実現が最優先事項として含まれるだろう。開発や福祉に関わる支配的な政治経済的言説を批判的に捉え直し、公正なガバナンスを求める民衆の公共行動の上に、人間と社会の安全保障を据えることはできるであろうか。

本セミナーでは、その可能性をみなさんといっしょに探してみたい。

報告者：原田 太津男

コーディネーター： 田中 高

コメンター： 高 英求